

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3770200594
法人名	有限会社ケアステーション
事業所名	グループホームどき
所在地	香川県丸亀市土器町西4丁目244 (電話) 0877-23-1125

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年1月23日	評価決定日	平成20年2月15日

【情報提供票より】(19年12月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 8月 3日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	21人 常勤 6人、非常勤 15人、常勤換算 6.48人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 5階建ての 3階 ~ 4階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	(有)150,000円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,300円				

(4) 利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.1歳	最低	71歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	この内科クリニック 大塚歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

5階建てビルの3・4階に2ユニットのグループホームがある。当ホームは市街地に近く、公共施設も整い、生活環境に恵まれている。1階には内科クリニックがあり、その院長がホーム利用者の健康管理にあたっている。2階のデイサービスセンターでは、ホーム利用者との交流もできる。食材は新鮮なものが使用され、一部の利用者は調理を手伝うなど、食事を楽しんでいる様子がうかがえる。また、個々の生活ペースが尊重され、ゆっくりとした時間が流れている。
職員の育成については、社内クレド(信条)を作成する等、積極的に取り組んでおり、職員一人ひとりが理念を受け入れ、スキルアップに積極的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題は11項目と多岐にわたっていたが、評価について職員への周知が図られ、できるところから改善への取り組みが見られる。運営推進会議については再度目的を理解され、構成員の検討からの取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員一人ひとりが自己評価し、管理者がまとめるという形式で取り組んでいる。自己評価することにより課題が明らかになり、個人の目標も出て、改善に取り組む姿勢がうかがえる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの現状や取り組みについて報告されている。今後、メンバーに地域住民の代表者の参加を求め、一層地域に根ざした地域密着型ホームを目指すことを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、グループホーム新聞「ほのぼの通信」を発行している。新聞には、利用者個人の写真入りで担当職員の通信欄もあり、家族に送っている。家族の意見や苦情は、面会時や行事の参加時、また、利用者・家族アンケート、意見箱などで収集し、迅速な対応を心がけ、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 夏祭りに参加したり、敬老の日にはお祝い物が届くなどの交流がある。デイサービスに来たボランティアの訪問などはあるが、日常的な地域との交流が少なく、利用者が地域の方々と馴染めるような機会、連携を作り出せるよう期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設者の高齢者介護の経験から、「家庭的雰囲気大切に、やすらぎを提供することで、明るく、楽しく、元気よく笑いの絶えない空間」作りを理念に掲げている。	○	利用者のニーズ、ホームの状況変化に応じた現状にあった理念に見直す必要性から、現在の理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に加えて社内クルドを作成し、職員にも共有され、利用者サービスへの向上に取り組んでいる姿勢がみられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りへの参加や敬老の日にお祝いが届いたり、デイサービスのボランティアの訪問を受け入れている。しかし、日常的な地元の方との交流はあまりない。	○	利用者が地域の一員として暮らして行くためには、ホームがその基盤となる。ホームが地域に目を向けて、地域活動や人々との関わりを積極的にもち、根気よく地域との交流に努めることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の実施意義について、管理者、職員は十分理解している。全員で自己評価し、課題を明らかにして、個人の目標を見出している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催され、ホームの現状や取り組みについて報告、話し合い、改善点を見出し、改善されている。しかし、メンバーに地域の方の参加がなく、地域の理解と支援の機会が十分でない。	○	地域に密着した運営をするうえで、地域代表者をはじめ、幅広い立場の人に運営推進会議への参加呼びかけは大切であると思われる。ホームの多彩な取り組みについてのモニター役として、働きかけることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町に広報紙「なんがでっきょんな」を配付して、広報に協力してもらっている。市主催で2か月に1回、グループホームのケアマネジャー対象の勉強会に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況は、「ほのぼの通信」で月1回家族へ報告している。「ほのぼの通信」はカラー写真入りで、担当者のコメント欄があり、分かりやすい。また、面会は、ほとんどの方が月1回以上あり、その際に暮らしぶりや健康状態・金銭出納などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3・4階の玄関カウンターに意見箱を設置しているが、利用度は低い。利用者・家族アンケート、面会時、運営推進会議などの機会に意見をいただき、検討・対処し、記録に残して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	創設時より離職者は減ってきている。可能な限り、離職者を非常勤で雇用し、利用者が馴染みの職員による支援を受けられるように努力している。また、2ユニットを兼務する職員は、利用者との馴染みの関係に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の長期研修計画はないが、外部研修は受けやすい環境を整えている。全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を持ち、記録を残している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催のグループホーム対象のケアマネジャー研修会に参加し、同席者と交流している。今後はホーム間の見学を検討しており、期待される。	○	サービスの質の向上には、他事業所との交流や連携が不可欠であると思われる。今後も県・市のグループホーム協議会などの助力を得て、見学会や相互研修会の機会をもち、サービスの質の向上を目指していくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	待機の方やデイサービス利用の方が多いので、馴染みながらのサービス利用開始となる場合が多い。そうでない方は職員が訪問し、馴染みの関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者で「気持ちを通じた。共有できた。」を満足感に、日々の暮らしのパートナーとして、利用者を捉えている様子が見えてくる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・行動・表情などから、利用者の思いを汲み取り、介護に反映させている。また、困難な場合は、家族・関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向、職員の日々の介護の中での気づき等を、ミーティングやサービス担当者会議で検討し、個別性のある介護計画が立案される。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングが行われており、長期・短期の介護目標を評価更新している。急な状態変化時は本人、家族、協力医療機関の医師と話し合い、現状に即した計画を作成し、実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いや買い物の要望に応じ、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、入居前のかかりつけ医療機関の受診を希望している利用者はいない。また、ホームの協力医療機関以外の受診が必要な時は、家族と相談のうえ、受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、予測される場合は、前もってホームで対応できる最大のケアを説明し、主治医、家族等の話し合いのうえ、方針を統一し、書面にて確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対するプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は見られない。メモなどの記録までシュレッターを利用し、個人情報保護法の理解が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを大切に考え、特に、食事時間や入浴時間は、可能な限り希望にあわせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房である程度まで調理したり、利用者の希望の献立をユニット内で調理する等、いろいろと組み合わせている。また、利用者の前向きな意思や姿勢を引き出すよう工夫され、食事を職員とともに楽しまれている様子がうかがわれる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により、入浴回数は、毎日から週2～3回の方までいる。また、ある程度までは時間も希望に応じ、見守り入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出、花の水やり、食事の用意、施錠の確認などの役割を支援し、利用者が共同生活者の一員であり、必要な存在であることを、感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出の機会が頻繁にないため、個々の利用者の希望に応じた支援ができるように考えているが、実現していない。	○	自然豊かな環境が近くにあるので、職員だけでなく、多方面からの支援も含めて、利用者の希望に沿った外出支援を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけないで支援することが常態化している。利用者の安全に配慮して、玄関にはチャイム・センサーを設置しており、目を離さない介護の姿勢がうかがえる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て、避難訓練、避難通路の確認などの訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は常にチェックし、記録されており、職員が情報を共有している。利用者の咀嚼、嚥下能力に応じた食材や、調理方法を用いた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広く、オープンキッチン併設のリビングである。テーブルは多目的使用で、リビングの変化が楽しめる。また、広い畳敷きのコーナーが併設され、堀コタツがあり、家族が宿泊することもできる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には押入れがあり、私物が整理できている。利用者はベッドをはじめ、好みの調度品に囲まれ、その人らしく居心地よく過ごせる配慮が見られる。		